

学校教育目標	思いやりのある生徒 真剣に学ぶ生徒 健康な生徒
目指す学校像	確かなコミュニケーションを基盤にした「自律・進取・友愛の気概溢れる我がが学び舎“チーム城北”」
重点目標	1 自己実現につながる確かな学力の定着・向上 2 自己実現の基盤となる豊かな人間性を育む教育の推進 3 コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育の推進 4 安心・安全を実現する教育環境整備の推進 5 チーム城北の強化と働き方改革の推進

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心身の発達や子どものサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学 校 自 己 評 価					学校運営協議会による評価		
年 度 目 標					年 度 評 価		
番号	現状と課題	評価項目(例)	具体的方策(例)	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状①) 授業場面では落ちている反面、学習意欲や学習内容の定着について向上を図る必要がある。 【課題①】 <u>真の学力(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学習意欲」)の定着・向上</u> にむけた指導体制の見直し・改善 (現状②)教育の質の向上の観点から、「カリキュラム・マネジメント」に着手中だが、「教科横断的」「地域との連携」という視点は不十分 【課題②】「PDCA サイクル」+「教科横断的」「地域との連携」の観点からの「カリキュラム・マネジメント」の充実	(主體的な学習を通じた)真の学力の育成  カリキュラム・マネジメントの充実	①「個別最適な学び」「協働的な学び」「探究的な学び」を大切に授業展開の工夫・改善 ②「指導→評価→支援」の一体化につながる評価の工夫 ③学習用タブレット等の効果的活用(学習ログの活用を含む)	①学びの指標「主體的な学び」の指標の向上(学校平均 R5...3.09 R7...3.13) ②特別な配慮を要する生徒への学習支援システムを構築と実施ができたか。 ③授業や特別な学習対応におけるミライシードやスタディサプリ等の活用ができたか。 ④毎学期末に推進委員会・部会を連携して実施できたか。 ⑤本校の重点目標や特色を生かした R8 年度版カリマネデザインマップを作成することができたか。			
	(現状①)生徒は比較的落ち着いた学校生活を送っているが、主体性の面ではまだ課題も多い。 【課題①】 <u>エージェンシーの育成</u> を大切に生徒指導・教育相談・生徒会活動の推進 (現状②)「いじめ防止に向けた迅速かつ組織的な対応」等の面では成果が出てきており、更なる体制強化が求められている。 【課題②】 <u>迅速かつ適切な生徒の状況把握並びに組織的な支援体制の更なる強化</u>	エージェンシーの育成  生徒の状況把握組織的対応の強化	①「教師が決定すること」と「生徒に委ねること」の明確化 ②生徒の意見を反映させることのできる体制整備 ③「自己決定→行動→振り返り(責任)⇒再行動」を前提とした指導の強化	①生徒指導部会や評議委員会において内容を検討できたか。 ②行事等において生徒の意見を取り入れた計画・運営が行われたか。 ③行事等において、事前・事後のワークシートの活用ができたか。 ④アンケート・SSDBの活用により、早期発見する体制が構築できたか。また、対応前相談が徹底されたか。 ⑤部会で対応力強化に係る研修や指導方針の共通理解等を効果的に実施できたか。			
3	(現状①)「小・中一貫教育の推進」という観点から、小・中合同会議の設定、小・中合同の学校運営協議会の開催等を実現した。 【課題①】「小・中一貫教育の推進」の観点からの <u>地域や小・中学校における具体的取組の強化</u> (現状②)学校便り・学校HP及びスクリレ、学校安心メール等を活用し、積極的な情報発信を行った。 【課題②】 <u>更なる情報発信・受信体制の強化</u>	小・中一貫教育の充実の観点からのコミュニティ・スクールの充実  情報発信・受信体制の強化	①小・中合同会議を中心とした各校における具体的な取組策の検討・実施 ②中学校区での合同学校運営協議会の実施及び中学校区全体での具体的取組の策定・実施	①小・中一貫教育の観点から、新たに各校で、具体的取組を行うことができたか。 ②中学校区においての重点取組を定め、地域の大人を巻き込んだ具体的な取組を実施することができたか。			
	(現状①)SoLa るーむの開室・運営開始は無事終了。しかしながら、不登校生徒数の減少等にはつながっていない。 【課題①】 <u>「誰一人取り残さない教育の実現」</u> につながる教育環境整備の強化 (現状②)施設等の修理・修繕等は、優先度を考慮し適宜進行中。ただし、整備が追い付いていない面がある。 【課題②】 <u>学校設備・備品等の更なる整備推進・校内美化</u> に向けた取組強化	不登校支援の強化  校内環境整備の強化	①不登校生徒(SoLa るーむ利用生徒含む)の学習支援体制の明確化及び「出席扱い」につながる支援の明確化 ②教育相談部会を中心とした「支援会議」の充実 ③SoLa るーむの機能強化・活用推進	①学習支援(授業の進度に合わせた課題を個別に提示)ができたか。 ②教育相談部会等による支援の充実(ケース会議の実施等)が図れたか。 ③SoLa るーむ利用者それぞれの実態に応じた支援(学習・相談・交流・ICT活用)が図れたか。 ④適切に清掃が行われたかを確認するシステムの構築ができたか。 ⑤安全点検において、計画的に実施され、指摘された箇所が対応されるなど、機能していたか。 ⑥予算会議で予算執行の基本的な考えを共通理解し、適切な執行ができたか。			
5	(現状①)生徒指導等の面では、OJT を意識した取組の効果は徐々に出てきている。学習指導等の面では、更なる取組が必要 【課題①】 <u>OJT の推進や教職員のキャリアに応じた指導力向上</u> に向けた研修の強化 (現状②)働き方改革の観点からの業務の精選・見直しは適宜おこなわれている反面、仕事の仕方については見直しが不十分 【課題②】 <u>「仕事の仕方改革」</u> の観点からの業務の見直し及び合理的な業務推進の徹底	教職員の指導力向上  働き方改革の推進	①「報告・連絡・相談・見届け」の強化を中心に据えた OJT の更なる推進 ②学校課題研究等、組織的な研修体制の強化 ③人事評価システムを活用した目標の明確化	①教職員の学校評価において、組織的対応についての肯定的な回答が8割増加したか。 ②学力向上に向けた研修会や、「主體的な学び」に関する研究授業等を校内で実施することができたか。 ③当初・中間面談が機能したか。 ④教育課程検討委員会の開催と OODA ループの観点からスピーディーな業務の見直しが図れたか。 ⑤時間外在校時間が月45時間を超える職員に対し、業務の確認、再配分や仕事の仕方に視点を当てた面談を実施できたか。			

学校運営協議会による評価  
 実施日 令和 年 月 日  
 学校運営協議会からの意見・要望・評価等